

# 琉球大学学術リポジトリ

## 琉球産フエダイ科魚類(Lutjanidae)の研究( 1 )

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語:<br>出版者: 琉球大学文理学部<br>公開日: 2011-11-15<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 篠原, 士郎, Shinohara, Shiro<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/22227">http://hdl.handle.net/20.500.12000/22227</a>                           |

琉球産フエダイ科魚類 (Lutjanidae) の研究  
( I )

篠 原 士 郎

**A review of the Lutjanidae (Snappers)  
found in the waters of Ryukyu. (I)**

Shiro SHINOHARA

**Résumé**

A number of species of the fish belonging to the family Lutjanidae are found in the Ryukyus. They constitute an important group of a commercial value, but their taxonomy has not been satisfactorily worked out.

The author has been studying some of this group. The present report is a part of the results and concerns three genera, namely *Pristipomoides*, *Paracaesio*, and *Etelis*.

The specimens collected mainly at the islands of Okinawa, Ishigaki and Yonaguni were studied and identified as belonging to the following twelve species. Among them, four species have not been reported from this area, and three are considered to be new to science.

Family Lutjanidae

Genus *Pristipomoides*

*Pristipomoides argyrogrammicus* (Valenciennes)

*Pristipomoides filamentosus* (Valenciennes)

= *Pristipomoides sieboldii* (Bleeker)

*Pristipomoides filamentosus roseus* (Castelnau)···(newly recorded)

*Pristipomoides amoenus* Snyder

= *Pristipomoides microdon* (Steindachner)

*Pristipomoides* sp.···(Considered to be new species)

*Pristipomoides auricillus* (Jordan, Evermann & Tanaka)···(newly recorded)

Genus *Paracaesio*

*Paracaesio xanthurus* (Bleeker)

*Paracaesio caeruleus* (Katayama)···(newly recorded)

*Paracaesio* sp. ···· (considered to be new species)

*Paracaesio* sp. ····(considered to be new species)

Genus *Etelis*

*Etelis Marshi* (Jenkins)···(newly recorded)

*Etelis carbunculus* Cuvier

## 緒 言

フェダイ科の魚類はタイ型の魚類で、その体形も食用魚として適当な大きさで肉も美味であり重要魚種に属するが、本来が熱帯、亜熱帯産である為日本に於ては種類も比較的少く、生産量も多くないため余り重要視されていない。琉球に於てはフェダイ科魚類の多くは通称「マチの魚」といつて大衆に愛好され、食用魚として重要なものである。

本科に属する魚類は琉球に於ては鰹、鮪等と並んで重要な魚類であるに拘らず、その学名や和名の判明していないものが多く水産上にも多大の支障があるに鑑みこの類の分類学的研究を思い立つた次第である。

フェダイ科魚類は琉球に於ては *Lutjanus* の類を除いては殆んどが釣により漁獲され、その中でも重要魚類の大方は 200 ~ 300 米の深海一本釣漁業によつて漁獲されている。

*Lutjanidae* に属する魚類は種類多く体形も多岐で学者によりその包含される範囲が異なるようであるが、その辺の検討は将来に残し、差し当り疑問の少い種類から順を追うて報告したい。

本研究に使用した標本は主として那覇魚市場、糸満魚市場、八重山石垣魚市場、与那国島に於て採集されたものである。

この研究をなすに当り文献其の他の点で多大の御配慮を賜つた京都大学農学部水産学教室の松原喜代松教授、赤崎正人氏及び種々御教示を賜つた東海区水産研究所阿部宗明博士に対して厚く御礼申上げる。

また標本の採集に當つて一方ならぬ御便宜を与えられた那覇地区漁業協同組合、糸満町漁業協同組合、琉球漁連八重山支所に対し深謝の意を表する。

### Family LUTJANIDAE (Snapper) フェダイ科

#### Genus *Pristipomoides* Bleeker ヒメダイ属

#### 種 の 検 索

a<sup>1</sup> 側線上の有孔鱗数 50 ~ 52. 舌上に歯なし.

..... *Pristipomoides argyrogamicus* ナガサキフェダイ

a<sup>2</sup> 側線上の有孔鱗数 70 ~ 72.

b<sup>1</sup> 鋤骨絨毛歯帯は槍穂状の四辺形 (ダイヤモンド形), 舌上に歯あり. 体は紫紅色.

..... *Pristipomoides filamentosus* ヒメダイ

b<sup>2</sup> 鋤骨絨毛歯帯三角形, 体は暗紫色で黄色斑を有し, 背鱗, 胸鱗, 尾鱗, 腹鱗共に黄色を帯びる. 舌上に歯なし.

..... *Pristipomoides auricilla* (Jordan, Evermann & Tanaka)

キマダラヒメダイ

a<sup>3</sup> 側線上の有孔鱗数 58 ~ 65, 舌上に歯なし.

c<sup>1</sup> 両顎前方の犬歯は小さい, 幽門垂 8 ~ 10 本 (大部分 8 本)

..... *Pristipomoides filamentosus roseus* オオヒメ

c<sup>2</sup> 両顎前方の犬歯大, 鋤骨歯は大きく犬歯状をなし

その数少く 20 本前後. 体は背部黄色, 腹部淡黄色, 体側には美しい青色鱗散在する. 幽門垂 5 ~ 6 (大部分は 5 本).

..... *Pristipomoides amoenus* ハナフエダイ  
 c<sup>3</sup> 兩顎前方の犬歯大, 鋤骨歯は無数の小さい  
 歯が絨毛状に分布している. 幽門垂5~6 (大部分は5本)  
 ..... *Pristipomoides* sp. (新種と考へられる).

*Pristipomoides argyrogrammicus* (Valenciennes)

和名 ナガサキフエダイ (琉球名 イリキンマチ)  
 (Plate III, Fig. 2.)

**体形**: 標準体長を100としてそれぞれの長さを示す。(標準体長374 mm.)

体高32.1, 体幅16.6, 尾柄高10.7, 頭長33.4, 眼径水平9.1. 一垂直7.7, 吻長12.1, 两眼間隔10.7, 上顎長14.4, 最長胸鰭軟条30.7, 腹鰭棘長15.0, 最長腹鰭軟条22.7, 最長背鰭棘(4th)15.5, 最長背鰭軟条19.5, 最長臀鰭軟条18.4, 眼下幅6.1, 頬高11.2.

**鰭式**: D. X 11, A. III 8, V. I 5, P. 16, C. 分岐軟条8+7.

**鱗**: 櫛鱗. 側線上の有孔鱗数50 (50~52), 側線上方鱗数 $7\frac{1}{2}$ , 側線下方鱗数13, 頬鱗数7.

**鰓耙**: 3~6 (更に痕跡的のもの2~4あり), +10~11 (更に痕跡的のもの1~3あり)

**歯**: 兩顎, 鋤骨及び口蓋骨に歯あり. 兩顎共外側の歯は犬歯状で大きく, 上顎の前面の歯は特に大きい. 兩顎の内側の歯は絨毛状歯である. 鋤骨には絨毛歯が三角形状に分布する. 口蓋骨にも絨毛歯が分布し, その歯帯の幅は *Pristipomoides* genus の中では最も広い. 舌上に歯なし. (Plate I, Fig. 3. Plate II, Fig. 5.)

本種は那覇, 糸満では採集する事は出来なかつたが八重山で始めて入手する事が出来た. 上市されている本魚はすべて大形のもので標準体長400 mm. 以下のものは見られなかつた. 体色は新鮮なものに於て紫紅色で虹色光沢を持ち, 頭部にも紫紅色の4~5条の横縞がありこの横縞はフオルマリン漬の標本に於てもはつきり黒色の縞として残つている.

幽門垂5つあり.

**分布**: 南日本, 支那, 琉球, 台湾, 東印度諸島, Andamans, Singapore, Mauritius.

*Pristipomoides filamentosus* (Valenciennes)

=*Pristipomoides sieboldii* (Bleeker)

和名 ヒメダイ (琉球名 クルキンマチ)  
 (Plate III, Fig. 4.)

**体形**: 標準体長を100としてそれぞれの長さを示す。(標準体長290 mm.)

体高27.6, 体幅17.0, 尾柄高8.6, 頭長29.6, 眼径水平9.0-垂直8.3, 吻長8.3, 两眼間隔9.6, 上顎長10.7, 最長胸鰭軟条29.0, 腹鰭棘長12.7, 最長腹鰭軟条17.0, 最長背鰭棘(4th)12.7, 最長背鰭軟条13.4, 最長臀鰭軟条13.4, 眼下幅2.4, 頬高6.5.

**鰭式**: C. X 11, A. III 8, V. I 5, P. 16, C. 分岐軟条8+7.

**鱗**: 櫛鱗. 側線上の有孔鱗数71 (70~72), 側線上方鱗数 $7\frac{1}{2}$ , 側線下方鱗数16, 頬鱗数7.

**鰓耙**: 8~10+20.

**歯**: 兩顎, 鋤骨及び口蓋骨に歯あり. 本種は舌上にも歯を持つ. 兩顎の外側の歯は幾分大き

いが他種のそれに比して微小である。鋤骨の絨毛歯帯は三角形の底辺部が後方に延びて十文字形(槍穂状)をなしているのが特徴的である。口蓋骨の絨毛歯帯の幅は非常に狭い。(Plate I, Fig. 5. Plate II, Fig. 1.)

**幽門垂**：8。

本種は琉球全域に亘り漁獲され、上市体形はオオヒメ、ナガサキフェダイに比して小形である。体色はオオヒメに似て紫紅色であるが、背鱗、尾鱗、腹鱗共に一様に淡赤褐色を呈する。概観の特徴としては胴体が比較的丸く体形は前後に延長し、サバの体形によく似ている事。鱗が小さい事等があげられる。

**分布**：日本中部以南の各地，琉球，Hawaii，Madagascar，Mauritius，Bourbon，Red Sea，Natal.

*Pristipomoides filamentosus roseus* (Castelnau)

和名 オオヒメ (琉球名 マーマチ)

(Plate III, Fig 1.)

**体形**：標準体長を100としてそれぞれの長さを示す。(標準体長313 mm.)

体高31.3，体幅16.6，尾柄高9.5，頭長29.3，眼径水平7.3—垂直6.7，吻長9.9，両眼間隔10.2，上顎長12.1，最長胸鱗軟条28.1，腹鱗棘長14.3，最長腹鱗軟条21.7，最長背鱗棘(4th～5th)12.8，最長背鱗軟条15.6，最長臀鱗軟条15.0，眼下幅4.1，頬高9.0。

**鱗式**：D. X 11, A. III 8, V. I 5, P. 16, C. 分岐軟条8+7。

**鱗**：櫛鱗。側線上の有孔鱗数64(60～65)，側線上方鱗数 $7\frac{1}{2}$ ，側線下方鱗数16，頬鱗数7。

**鰓耙**：5～8+14～16(上下枝共痕跡的のもの更に3つ位あり)。

**齒**：両顎，鋤骨及び口蓋骨に齒あり。両顎の外側に並ぶ犬歯は比較的小である。鋤骨の絨毛歯帯は三角形であるが，三角形の頂点は幾らか丸みを帯びた三角形状である。鋤骨齒は他種に比べ細かい齒が絨毛状に並ぶ。

口蓋骨上の絨毛歯帯の幅はヒメダイに似て狭い。舌上に齒なし。(Plate I, Fig. 1, Plate II Fig 2.)

**幽門垂**：8。

本種は琉球全域に亘り漁獲されるもので通称「マアマチ」といわれる重要魚である。従来このマアマチは和名ヒメダイに当てられていたが間違いでマアマチはオオヒメに当るものである。上市体形は大形のもの大部分で小形のは極稀である。概観の特徴としては尾鱗の後縁，背鱗の上縁が新鮮なものに於ては美しい紅色を呈する事，眼の前上部から鼻孔の上部にかけて特に左右に隆起している事，頭の上面に紫紅色の小斑点がゴマを散らしたように分布しこの斑点はフォルマリン漬標本に於ても黒斑として残る事等である。

**分布**：—琉球，小笠原—八丈島，Queensland，New South Wales.

*Pristipomoides amoenus* Snyder

=*Pristipomoides microdon* (Steindachner)

和名 ハナフェダイ (琉球名 ビタロウ)

(Plate III, Fig. 5)

**体形**：次に示す数値は標準体長を100としての計算である。(標準体長 272 mm.)

体長 37.0, 体幅 16.5, 尾柄高 9.9, 頭長 32.7, 眼径水平 9.9—垂直 8.0, 吻長 9.5, 両眼間隔 7.7, 上顎長 15.8, 最長胸鰭軟条 34.0, 腹鰭棘長 15.0, 最長腹鰭軟条 23.8, 最長背鰭棘(4 th) 12.9, 最長背鰭軟条 16.5, 最長臀鰭軟条 16.5, 眼下幅 5.2, 頬高 11.0.

**鰭式**：D. X 11, A. III 8, V. I 5, P. 16, C. 分岐軟条 8 + 7.

**鱗**：櫛鱗。側線上の有孔鱗数 58 (58 ~ 62), 側線上方鱗数  $7\frac{1}{2}$ , 側線下方鱗数 15, 頬鱗数 7.

**鰓**：2 + 10 (上下枝共更に 2 ~ 4 の痕跡的のものあり).

**歯**：両顎, 鋤骨及び口蓋骨に歯あり。両顎外側の犬歯はナガサキフエダイに似て強大なり。鋤骨の歯帯は絨毛歯ではなく犬歯状の大なる歯が小数 (10 ~ 20 本) 並立している。口蓋骨の歯帯の幅はナガサキフエダイのそれに似て幅広い。舌上に歯なし。

(Plate I Fig. 4. Plate II Fig. 3.)

**幽門垂**：— 5.

本種は琉球一門に亘り漁獲され, 上市体形はヒメダイと共に比較的小形である。本種の概観的特徴としては体の背部から尾鰭にかけて鮮黄色を呈し腹部は淡紅色で銀色光沢を伴う事, 第一背鰭棘の基部を中心にして一塊の青色鱗があり更に同様な青色鱗が体の所々に散在し生鮮時は和名の示す通り体色が美麗である事等である。この青色鱗は保存標本に於ては黒色を呈する。

**分布**：高知沖, 八丈島, 琉球, Hawaii, New South Wales, Queensland.

*Pristipomoides* sp. (新種と考えられる)

和名 ナン (琉球名 キンミーマチ)

(Plate III, Fig. 3.)

**体形**：標準体長を100としてそれぞれの長さを示す。(標準体長 320 mm.)

体高 31.2, 体幅 18.1, 尾柄高 9.7, 頭長 30.0, 眼径水平 8.1—垂直 6.6, 吻長 10.3, 両眼間隔 9.4, 上顎長 12.8, 最長胸鰭軟条 28.1, 腹鰭棘長 14.0, 最長腹鰭軟条 25.0, 最長背鰭棘 14.4, 最長背鰭軟条 17.1, 最長臀鰭軟条 15.3, 眼下幅 5.0, 頬高 10.3.

**鰭式**：D. X 11, A. III 8, P. 16, V. I 5, C. 分岐軟条 8 + 7.

**鱗**：櫛鱗。側線上の有孔鱗数 64 (60 ~ 65), 側線上方鱗数  $6\frac{1}{2}$ , 側線下方鱗数 15, 頬鱗数 6 ~ 7.

**鰓**：3 ~ 5 + 15 (上下枝共なお痕跡的のもの 1 ~ 2 あり).

**歯**；両顎, 鋤骨及び口蓋骨に歯あり。両顎の外側犬歯は特に大である。鋤骨の絨毛歯帯は三角形で底辺中央縁は少しく凹んでいる。口蓋骨上の絨毛歯帯の幅はオオヒメのそれより広い。舌上に歯なし。(Plate I Fig 2, Plate II Fig 4.)

**幽門垂**；— 5 ~ 6 (大部分は 5).

本種は概観的には *Pristipomoides filamentosus roseus* (Castelnau) に似ている。但し次の諸点は両種の間的重要な相違点であり生鮮時に於ては特に明瞭に区別される事から本種は新種とする事が妥当と思料せられる。

|                  | <i>Pristipomoides filamentosus roseus</i><br>(CASTELNAU) (マーマチ) | <i>Pristipomoides</i> sp. (キンミマチ) |
|------------------|---|-----------------------------------|
| 背鱗・尾鱗の色<br>(新鮮時) | 背鱗の上縁、尾鱗の後縁は紅色  | 黄色                                |
| 両顎の歯             | 細小  | 強大                                |
| 口蓋骨の歯            | 絨毛歯帯の幅狭い  | 広い                                |
| 幽門垂              | 8~10 (多くは8)   | 5~6 (多くは5)                        |
| 鱗                | 背鱗棘は比較的軟くしなやかである。<br>腹鱗軟条、背鱗軟条は余り延長せず<br>(後者に比較して)              | 背鱗棘は強大である。腹鱗軟条、背<br>鱗軟条大いに延長する。   |

分布：琉球。

*Pristipomoides auricilla* (Jordan, Evermann & Tanaka)

和名 キマダラヒメダイ (琉球名 グルクンマチ)

(Plate III. Fig. 6)

体形：標準体長を100としてそれぞれの長さ次の如し (標準体長 265 mm.)

体高 29.4, 体幅 18.1, 尾柄高 9.1, 頭長 30.9, 眼径水平 8.3—垂直 7.2, 吻長 9.4, 両眼間隔 10.2, 上顎長 11.3, 最長胸鱗軟条 26.8, 腹鱗棘長 13.6, 最長腹鱗軟条 20.4, 最長背鱗棘 13.6 (前から5番目), 最長背鱗軟条 13.2, 眼下幅 3.0, 頬高 8.3, 最長臀鱗軟条 12.4.

鱗式：D. X 11, A. III 8, P. 16, V. I 5, C. 分岐軟条 8 + 7.

鱗：櫛鱗, 側線上の有孔鱗数 70 (70~72), 側線上方鱗数 8, 側線下方鱗数 16~17, 頬鱗数 6.

鰓耙：7~11 + 17~20.

歯：両顎, 鋤骨及び口蓋骨に歯あり, 舌上に歯なし. 両顎の外側前方の歯は幾分大きく両顎歯の状態及び口蓋骨の歯帯は *Pristipomoides filamentosus* によく似ている. 鋤骨上の歯帯は *Pristipomoides filamentosus* とは明らかに異り, 稍々三角形状である.

(Plate I, Fig. 6, Plate II, Fig. 6)

本種については“Records of Oceanographic Works in Japan, Vol. 5, No. 2, March, 1960”に阿部宗明博士が詳しく報告しておられるので, それに基づいて種名を同定した.

本種は琉球に於ても漁獲量少く稀極に上市される.

本種の外形は *Pristipomoides filamentosus* とよく似ているが生鮮時の体色に著しい違いがあり, 生鮮時に於ては体色を一見して両者の区別は容易につけられる. 尚外部形態, 内部形態を詳細に調べた結果は, ある部分は *Pristipomoides filamentosus* によく似ているし又ある部分は *P. filamentosus roseus* に似た点もあり, 両者の中間型の形態のものである. 以上3種の間の区別点を挙げれば次表の如し.

|             | <i>Pristipomoides filamentosus</i>  | <i>P. filamentosus roseus</i> | <i>P. auricilla</i>   |
|-------------|-------------------------------------|-------------------------------|---|
| 側線有孔鱗数      | 70~72                               | 60~65                         | 70~72   |
| 鰓 耙 数       | 8~10+20                             | 3~5+15                        | 7~11+17~20  |
| 鋤 骨 齒       | 槍穂状の四辺形                             | 三角形                           | 三角形   |
| 舌 上 齒       | あ り                                 | な し                           | な し   |
| 第 二 眼 下 骨 床 | 幅 狭 い                               | 幅 広 い                         | 幅 広 い   |
| 鼻 骨         | 細長く小さい                              | 比較的幅広く大きい                     | 細長く小さい  |
| 側線上方鱗       | $7\frac{1}{2}$                      | $7\frac{1}{2}$                | 8   |
| 体 色         | 体は一樣に暗紫赤色で腹方は幾分淡し、背鰭、尾鰭、胸鰭、腹鰭共に淡赤褐色 | 体は暗紫赤色、背鰭、尾鰭の辺縁は紅色を呈する。       | 体は暗紫色、頭部には眼を横切つて黄色帯あり。体の背部には広範囲に亘り黄色斑紋あり。腹部に行くに従い黄斑点に変る。背鰭軟条部、胸鰭、腹鰭は黄色を呈し、尾鰭上葉部も黄色を呈する。 |

分布: Hawaii, 八丈島, 小笠原島附近, 琉球.

Genus *Paracaesio* Bleeker ウメイロ属

種 の 検 索

a<sup>1</sup> 側線有孔鱗数は 70~72, 背鰭棘は弱い.

b<sup>1</sup> 体の背側は鮮黄色, 頭部と体側中央部より腹方は淡紫青色.

..... *Paracaesio xanthurus* (ウメイロ)

b<sup>2</sup> 体は暗紫色, 背鰭, 胸鰭, 腹鰭, 臀鰭, 尾鰭共に亦褐色を帯びる. 体高高く, 尾鰭両葉延長している.

..... *Paracaesio* sp. (新種と思考される)

a<sup>2</sup> 側線有孔鱗数は 49~50, 背鰭棘は極めて強硬.

c<sup>1</sup> 体は一樣に帯紫青色, 主上顎骨に鱗なし, 幽門垂 7 本.

..... *Paracaesio caeruleus* (アオダイ)

c<sup>2</sup> 体は暗色で幾分黄味を帯びる. 体高高く, 主上顎骨に鱗あり, 幽門垂 5 本.

..... *Paracaesio* sp. (新種と思考される).

*Paracaesio xanthurus* (Bleeker)

和名 ウメイロ (琉球名 ウメイロ)

(Plate IV, Fig. 1)

体形: 標準体長を 100 としてそれぞれの長さを示す (標準体長 270 mm, 全長 350 mm.)  
 体高 36.3, 体幅 20.4, 尾柄高 9.3, 頭長 27.4, 眼径水平 7.8—垂直 7.0, 吻長 7.0, 両眼



間隔 11.7, 上顎長 9.3, 最長胸鰭軟条 31.1, 腹鰭棘長 14.4, 最長腹鰭軟条 18.8, 最長背鰭棘 (3rd) 14.0, 最長背鰭軟条 (最後から2番目) 14.8, 最長腎鰭軟条 (最後から2番目) 11.1, 眼下幅 1.8, 頬高 7.0.

鰭式: D. X 10, A. III 8, P. 17, V. I 5, C. 分岐軟条 8 + 7.

鱗: 櫛鱗. 側線上の有孔鱗数右 72, 左 71 (70 ~ 72). 側線上方鱗数  $9\frac{1}{2}$ , 側線下方鱗数  $17\frac{1}{2}$ , 頬鱗数 7, 主上顎骨に鱗なし.

鰓耙: 9 + 19.

齒: 両顎, 鋤骨及び口蓋骨に齒あり. 両顎の外側列の齒は幾分大きい円錐齒である.

幽門垂: 5本.

本種は琉球全域に亘り漁獲されるが漁獲量僅少で余り重要でない. 体形も大形のものなく体長 250 mm, 前後のものが多い.

概観の特徴としては第一背鰭棘の基部から尾鰭にかけて背部一帯が美しい黄色を呈する事, 体形が他種に比べて体高低く少々紡錘形である事, 及び背鰭棘が軟弱である事等があげられる.

分布: 長崎, 高知, 八丈島, 小笠原島, 琉球, Madagascar, Lord Howe Island.

*Paracaesio caeruleus* (Katayama)

和名 フオダイ (琉球名 シチュウマチ)

(Plate IV, Fig. 2.)

体形: 標準体長を 100 としてそれぞれの長さを示す. (標準体長 220 mm. 全長 282 mm.) 体高 35.0, 体幅 18.8, 尾柄高 10.0, 頭長 27.3, 眼径水平 9.0 — 垂直 8.6, 吻長 6.8, 両眼間隔 11.8, 上顎長 10.4, 最長胸鰭軟条 33.6, 腹鰭棘長 14.5, 最長腹鰭軟条 19.0, 最長背鰭棘 (4th.) 13.6, 最長背鰭軟条 (最後から3番目) 12.3, 最長腎鰭軟条 (最後から3番目) 10.4, 眼下幅 2.3, 頬高 7.7.

鰭式: D. X 10, A. III 8, P. 16, V. I 5, C. 分岐軟条 8 + 7.

鱗: 櫛鱗. 側線上の有孔鱗数 49 (49 ~ 50). 側線上方鱗数 9, 側線下方鱗数  $14\frac{1}{2}$ , 頬鱗数 6, 主上顎骨に鱗なし.

鰓耙: 10 ~ 11 + 19 ~ 20.

齒: 両顎, 鋤骨及び口蓋骨に齒あり. 両顎の齒は円錐齒でウメイロに似ている.

幽門垂: 7本.

本種は琉球一円に広く漁獲され重要魚種である. 肉はよくしまり美味で葱菜用としてはマチ類の中で最も愛好されている.

体は一様に帯紫青色 (腹部は幾分淡色) で主上顎骨に鱗のないことにより区別がつけ易い.

分布: 高知, 八丈島, 琉球.

*Paracaesio* sp. (新種と思考される).

和名 ナシ (琉球名 シルシチュウマチ)

(Plate IV, Fig. 3.)

体形: 標準体長を 100 としてそれぞれの長さを示す. (標準体長 300 mm, 全長 392 mm.)

体高 30.0, 体幅 18.0, 尾柄高 11.3, 頭長 26.3, 眼径水平 8.3—垂直 8.0, 吻長 6.7, 両眼間隔 11.3, 上顎長 9.7, 最長胸鰭軟条 33.0, 腹鰭棘長 15.3, 最長腹鰭軟条 21.7, 最長背鰭棘(4th) 13.7, 最長背鰭軟条(最後から3番目) 13.7, 最長臀鰭軟条(最後から3番目) 12.3, 眼下幅 3.0, 頬高 9.3.

鱗式: D. X 10, A. III 8, P. 16, V. I 5, C. 分岐軟条 8 + 7.

鱗: 櫛鱗. 側線上方鱗数  $10\frac{1}{2}$ , 側線下方鱗数  $17\frac{1}{2}$ , 頬鱗数 7, 主上顎骨に鱗あり.

鰓耙: 8 + 17 ~ 18.

齒: 両顎, 鋤骨及び口蓋骨に齒あり. 両顎の齒は他種に比較して幾分微小である.

幽門垂: 5本.

本種は琉球全域に亘り広く漁獲され, 漁獲量はアオダイよりは大いに劣る. 食用価値はアオダイと同様で一般に愛好されている.

本種は次の諸点から見て新種であると考えられる.

1. *Paracaesio xanthurus* (ウメイロ) とは体形, 体色により判然と区別される.
2. *Paracaesio caeruleus* (アオダイ) とはよく似ているが生鮮時本種には幅広い3条の淡黒色の斑紋を有する事, 頭長が短く体高が高い事, **主上顎骨に鱗を有する事**, 幽門垂はアオダイでは7本であるが本種では5本ある事等により判然と区別がつけられる.
3. K. H. Barnard が 1937 年に "Further Notes on South African Marine Fishes" の中で New genus, New species として記載した *Actiasis cantharoides* と本種はよく似ているがこれとは次の諸点で区別出来る.
  - i) *Actiasis cantharoides* (前者とする) は Dorsal fin formula D. XII 7, であるが本種のそれは D. X 10, である.
  - ii) 前者の Dorsal spine は弱い (Slender) が後者のは強硬である.
  - iii) Dentary bone (齒骨), Premaxilla (前上顎骨) の形態及び Vomer の齒帯の形態が明らかに異なる.
  - iv) 後者の胸鰭は鎌状で延長するが前者のそれは余り延長せず Aprion のそれに似ている.
  - v) 側線鱗は前者 72 に対し後者のは 49 ~ 50 である.

\* 主上顎骨に鱗がある点は両者よく似ている.

分布: 琉球一門.

*Paracaesio* sp. (新種と思考される)

和名 ナシ (琉球名 ヒンガーシチュウ)

(Plate IV, Fig. 4.)

体形: 標準体長を 100 としてそれぞれの長さを示す (標準体長 215 mm. 全長 308 mm.)  
 体高 38.6, 6, 体幅 17.2, 尾柄高 7.4, 頭長 25.6, 眼径水平 7.4—垂直 7.4, 吻長 7.0, 両眼間隔 10.7, 上顎長 10.2, 最長胸鰭軟条 32.0, 腹鰭棘長 14.9, 最長腹鰭軟条 20.9, 最長背鰭棘(第三番目) 15.3, 最長背鰭軟条(最後から二番目) 13.9, 最長臀鰭軟条(最後から二番目) 13.0, 眼下幅 2.3, 頬高 7.0.

鱗式: D. X 10, A. III 8, P. 17, V. I 5, C. 分岐軟条 8 + 7.

鱗: 櫛鱗, 側線上の有孔鱗数 70 (70 ~ 72). 側線上方鱗数  $8\frac{1}{2}$ , 側線下方鱗数 16 ~ 17.

頬鱗数 6, 主上顎骨に鱗なし.

鰓耙: 10 + 21.

歯: 両顎, 鋤骨及び口蓋骨に歯あり, 歯の状態はアオダイに酷似する.

幽門垂: 5本.

本種は漁獲少く, 極稀に上市される. ヒンガーンチユウという名前はよごれたアオダイの意で体色は暗紫色で, 眼の前方が幾分黄味を帯び, 又各鱗は赤褐色を帯びている事で他種と容易に区別される. 形態的には *Paracaesio xanthurus* によく似通っているが次の諸点により両者間の区別は可能である.

|            | ウメイロ<br><i>Paracaesio xanthurus</i> | (琉球名 ヒンガーンチユウ)<br><i>Paracaesio</i> sp.              |
|------------|-------------------------------------|--|
| 体色         | 体の背方は鮮黄色, 頭部と体側中央部より腹方は淡紫青色         | 体は頭部の眼前部が幾分黄色を呈する他は暗紫色で. 背鱗, 胸鱗, 腹鱗腎鱗, 尾鱗は共に赤褐色を帯びる. |
| 前上顎骨上縁中央突起 | 大                                   | 少  |
| 第二眼下骨      | 大                                   | 小  |
| 眼下骨数       | 第二眼下骨の後方に3つの小眼下骨がある.                | 第二眼下骨の後方に2つの小眼下骨がある.                                 |
| 頬鱗数        | 7                                   | 6  |
| 鼻骨         | 幅広く大きい                              | 幅狭く小さい   |
| 尾鱗葉長       | 尾鱗葉比較的短く<br>標準体長100に対して 22.8        | 尾鱗葉長く<br>標準体長100に対して 43.2,                           |

### Genus *Etelis* Cuvier et Valenciennus ハマダイ属

#### 種の検索

a<sup>1</sup> 上下両顎外側列の犬歯は大で特に前方のは強大, 鰓耙数 3 ~ 4 + 8 ~ 9, 尾鱗は中庸に二又する.

..... *Etelis marshi*

a<sup>2</sup> 両顎外側列の犬歯は上顎の前方の一対を除いては小さい; 鰓耙数 4 ~ 9 + 13 ~ 16; 尾鱗は深く二又しその上葉は特に延長している.

..... *Etelis carbunculus* (ハマダイ)

#### *Etelis marshi* (Jenkins)

和名 ナシ (琉球名 ヒランマチ)

(Plate IV, Fig. 6.)

体形: 標準体長を100としてそれぞれの長さを示す (標準体長 280 mm. 全長 360 mm.)  
体高 30.0, 体幅 17.1, 尾柄高 10.7, 頭長 31.4, 眼径水平 10.0—垂直 9.0, 吻長 8.5,  
両眼間隔 10.7, 上顎長 16.1, 最長胸鱗軟条 25.0, 腹鱗棘長 13.2, 最長腹鱗軟条 18.0, 最長背鱗棘 14.0, 最長背鱗軟条 11.8, 眼下幅 3.9, 頬高 10.0.

鱗式: D. X 11, A. III 8, P. 16, V. I 5, C. 分岐軟条 8 + 7.

鱗：櫛鱗。側線上の有孔鱗数 50 (48～50)，側線上方鱗数 5，側線下方鱗数  $11\frac{1}{2}$ ，頬鱗数 7，主上顎骨に鱗あり。

鰓耙：3～4 + 8～9 (上下枝共に退化消失せるもの多し)。

歯：両顎，鋤骨及び口蓋骨に絨毛歯あり。両顎の外側列の歯は大きく前方の歯は特に強大である。外側列の犬歯は *Etelis carbunculus* に比べて特に大きく目立つ。

幽門垂：5本。

本種は琉球全域に亘り漁獲されるがその量はハマダイに比して著しく少い。

体色はハマダイに比して淡色で腹部はハマダイに似て銀色光沢あり。尾鱗は中庸に二叉し，背鱗棘は後方に行くに従い著しく短くなり軟条部に於て再び長くなっている。

分布：琉球，Hawaii。

*Etelis carbunculus* Cuvier

和名 ハマダイ (琉球名 アカマチ)

(Plate IV, Fig. 5.)

体形：標準体長を 100 としてそれぞれの長さを示す (標準体長 31 mm. 全長—尾鱗上葉後端迄—451 mm.)。

体高 29.0，体幅 18.1，尾柄高 9.7，頭長 30.6，眼径水平 10.3—垂直 10.6，吻長 8.0，両眼間隔 10.3，上顎長 14.2，最長胸鱗軟条 26.4，腹鱗棘長 16.8，最長腹鱗軟条 21.0，最長背鱗棘 18.0，最長背鱗軟条 11.3，最長臀鱗軟条 12.3，眼下幅 2.2，頬高 7.1。

鱗式：D. X 11, A. III 8, P. 16, V. I 5, C. 分岐軟条 8 + 7。

鱗：櫛鱗。側線上の有孔鱗数 50 (48～50)，側線上方鱗数 6，側線下方鱗数 13，頬鱗数 7，主上顎骨に鱗あり。

鰓耙：4～9 + 13～16。

歯：両顎に細かい歯が列生し外側の歯は幾分大きい。上顎前方には一對の特に大なる犬歯あり。両顎，鋤骨及び口蓋骨に絨毛状の歯帯あり。

幽門垂：5本。

本種は琉球全域に於て漁獲され漁獲高も多く重要魚種の一つである。

特徴としては体は背部鮮紅色で腹部は淡紅色で銀色の光沢を持つ事，尾鱗が深く二叉し上葉は特に延長している事，尾鱗上葉の延長の程度は年令と共に大となる傾向あり。背鱗棘は長大であるが後方に行くに従い短くなり軟条部に於て再び長くなっているのて棘条部と軟条部は明確に区別される事等である。

分布：日本中部以南の深海，琉球，Hawaii，Seychelles，Réunion，Mauritius，Bourbon，west Indies。

摘 要

1. 標本は主として沖繩本島，石垣島，及び興那国島に於て採集されたものである。
2. 今回は Family Lutjanidae の内の *Pristipomoides*, *Paracaesio*, *Etelis* の三属について報告する。

3. 標本について外部形態、内部形態を検討の結果、次表の通り Genus *Pristipomoides* に属するもの 6 種 (内 2 種は新記録, 1 種は新種と考えられる), Genus *Paracaesio* に属するもの 4 種 (内 1 種は新記録, 2 種は新種と考えられる), Genus *Etelis* に属するもの 2 種 (内 1 種は新記録), 計 12 種が琉球水域にいることがわかつた。
4. 本報告に於て種名不明のもの 3 種をあげてあるが、これは手持ち文献不完備のためで、更に文献を精査の上これらの種名を明確にしたい。

## Family Lutjanidae

Genus *Pristipomoides*

- Pristipomoides argyrogrammicus* (Valenciennes)  
*P. filamentosus* (Valenciennes) = *P. sieboldii* (Bleeker)  
*P. filamentosus roseus* (Castelnau) …… (新記録)  
*P. amoenus* Snyder = *P. microdon* (Steindachner)  
*P. auricilla* (Jordan, Evermann & Tanaka) …… (新記録)  
*Pristipomoides* sp. …… (新種と考えられる)

Genus *Paracaesio*

- Paracaesio xanthurus* (Bleeker)  
*Paracaesio caeruleus* (Katayama) …… (新記録)  
*Paracaesio* sp. …… (新種と考えられる)  
*Paracaesio* sp. …… (新種と考えられる)

Genus *Etelis*

- Etelis marshi* (Jenkins) …… (新記録)  
*Etelis carbunculus* Cuvier et Valenciennes

## 参 考 文 献

- 富山一郎, 阿部宗明, 1957: 日本産魚類図説, 56 卷。  
 松原喜代松, 1955: 魚類の形態と検索。  
 岡田弥一郎, 松原喜代松, 1938: 日本産魚類検索。  
 青柳兵司, 1949: 琉球列島産珊瑚礁魚類の研究, 動雑, 58 (8)。  
 田中茂穂, 1917: 日本産魚類の十一新種. 動雑 29。  
 田中茂穂, 阿部宗明, 1955: 図説有用魚類千種。  
 Katayama, M., 1934: On the external and internal characters of the bony fishes of the genus *Vegetichthys*, with a description of one new species. Proc. Imp. Acad. 10 (7).  
 J. L. B. Smith, 1949: The Sea Fishes of Southern Africa.  
 L. P. Schultz, and Collaborators: Fishes of the Marshall and Marianas Islands. U. S. M. N. Bull. 202, Vol. 1.  
 D. S. Jordan, S. Tanaka and J. O. Snyder, 1913: A Catalogue of the Fishes of Japan. Journal of the College of Science, Tokyo Imperial University, vol. XXXIII.  
 A. W. Herre, 1953: Check list of Philippine Fishes.  
 K. H. Barnard, 1927: A Monograph of the Marine Fishes of South Africa. Part II.  
 K. H. Barnard, 1937: Further Notes on South African Marine Fishes.

- H. Blegvad and B. Løppenthin, 1944: Fishes of the Iranian Gulf. Danish Scientific Invest. in Iran. Part III.
- H. W. Fowler, 1928: Contributions to the Biology of the Philippine Archipelago and Adjacent regions. U. S. N. M. Bull. 100.
- D. S. Jordan and W. F. Thompson, 1912: Families of Perch-like Fishes found in the Waters of Japan. Proc. U. S. N. M. Vol. 41.
- D. S. Jordan and W. F. Thompson, 1911: A Review of the Fishes of the Families Lobotidae and Lutjanidae, found in the water of Japan. U. S. N. M. Vol. 39.
- J. L. B. Smith, 1938: The South African Fishes of the Families Sparidae and Denticidae. Trans. R. S. of South Africa. Vol. 26.
- Max Weber and L. F. de Beafort, 1936: The Fishes of the Indo-Australian Archipelago.
- Siebold, 1842: Founa Japonica.
- M. P. Bleeker,: Atlas Ichthyologiquedes.
- Jordan & Jordan,: Fishes of Hawaii.
- Tokiharu Abe: Note on Some Edible Marine Fishes Collected between the Bonin Islands and the Mouth of Sagami Bay. II, Records of Oceanographic Works in Japan, Vol. 5. No. 2, March, 1960.

Plate I

Ventral view of vomers of the genus *Pristipomoides*.

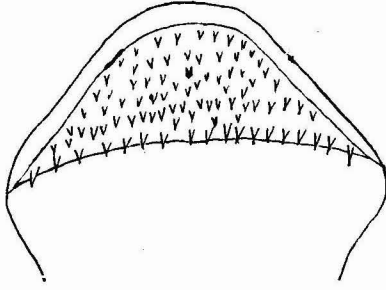


Fig. 1 *Pristipomoides filamentosus reseus*

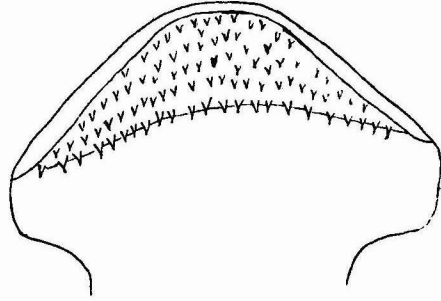


Fig. 2 *Pristipomoides* sp.

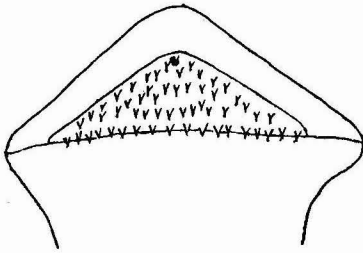


Fig. 3 *Pristipomoides argyrogrammicus*

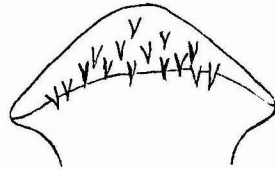


Fig. 4 *Pristipomoides anoenus*

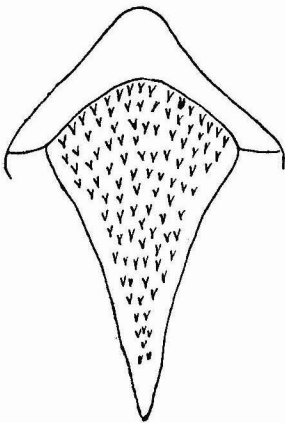


Fig. 5 *Pristipomoides filamentosus*

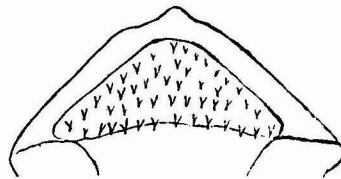


Fig. 6 *Pristipomoides auricilla*

Plate II  
Head portion

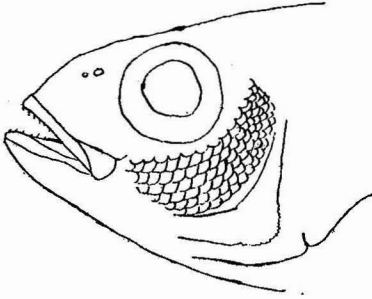


Fig. 1 *Pristipomoides filamentosus*

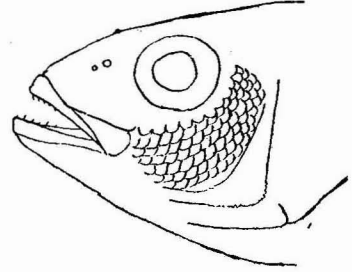


Fig. 2 *Pristipomoides filamentosus roseus*

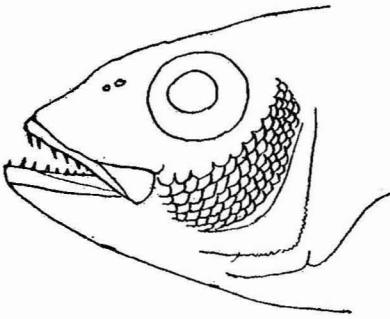


Fig. 3 *Pristipomoides amoenus*

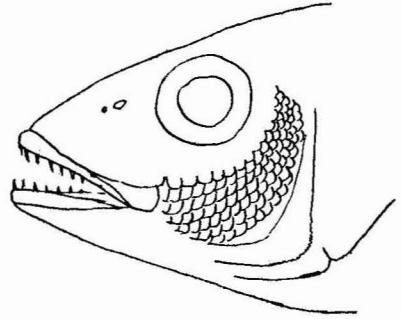


Fig. 4 *Pristipomoides* sp.

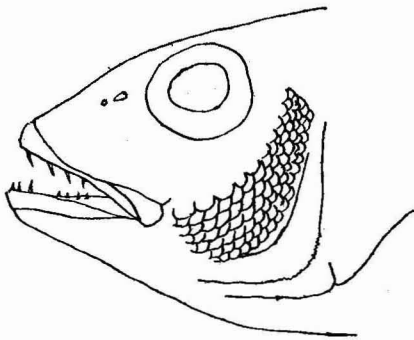


Fig. 5 *Pristipomoides argyrogramicus*

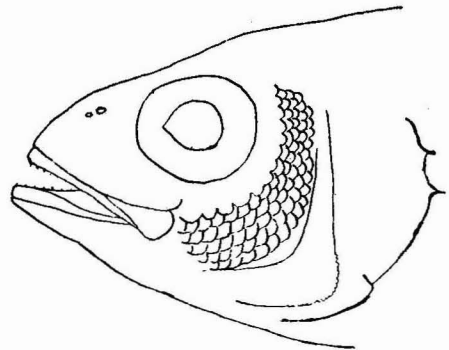


Fig. 6 *Pristipomoides auricilla*



Plate III

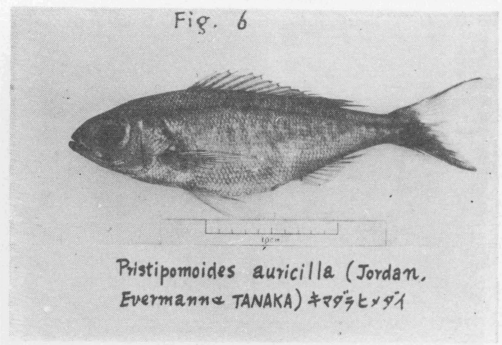
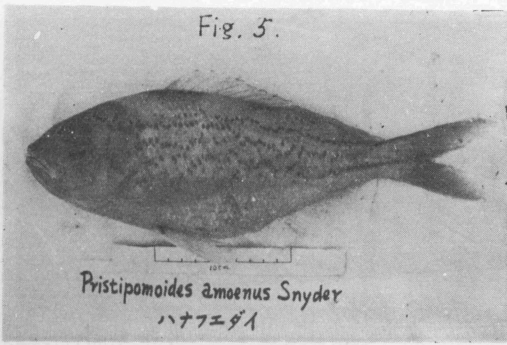
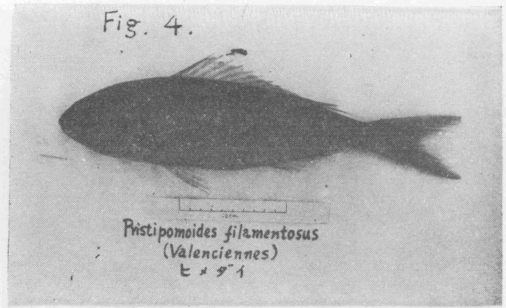
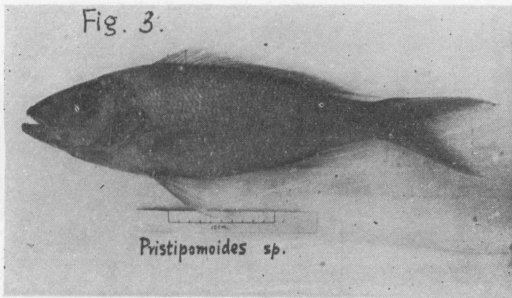
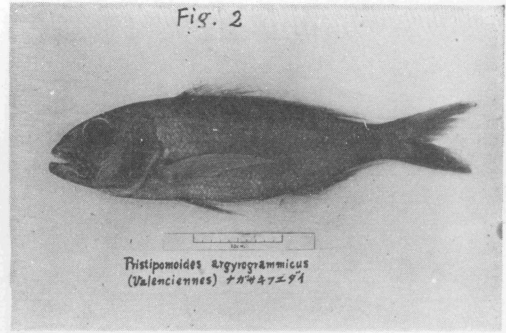
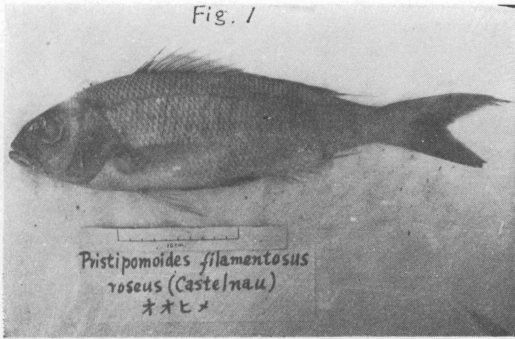


Plate IV

